

ECCM16 –European Conference of Composite Materials 16th 出張報告書

文責：同志社大学構造工学(藤井・大窪)研究室 14M2 梅木 亮

学会名：ECCM16 –European Conference of Composite Materials 16th

開催期間：2014年6月22日(日)~6月26日(木)

開催場所：スペイン，セビリア

発表研究題目：Influence of stacking sequence on tensile strength of orthotropic CFRP fabricated with prepreg containing Cellulose Nano Fibers (CNFs)

著者：Ryo Umeki, Kazuya Okubo, Toru Fujii, Kazumasa Kawabe, Keiichi Kondo, Takeshi Yamazaki, Kenichi Hamada and Tetsuya Harada

発表形式：Oral presentation(20 min)

HP: <http://www.eccm16.org/cgi.hrb?idexp=R3RAH>

私は、2014年6月22日(日)~6月26日(木)に開催された ECCM16 に参加しました。下記にその詳細を示します。

1.セビリアまで

関西国際空港より、ドバイ経由でスペインのマドリッドに向かいました。そこからスペインの国内線に乗り継ぎ、セビリア空港に到着しました。

2.ECCM16 に参加

ECCM は複合材料に関する学会で、今回は世界中から千人以上の参加者があったそうです。そのため、10以上のセッションが同時に進行していました。私はセルローズに関連したセッションで Oral のプレゼンテーションを行いました。講演の形式は、発表 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分でした。

私は発表の前日ホテルの部屋で猛練習をしました。パワーポイントが投影されるスクリーンが自分に向かって右手にある場合、左手にある場合、どちらの場合にも備えて練習しました。また、講演内容を何度も何度も、繰返し発音し、どのタイミングでレーザーポインタを使用するか、など、できうる限りの練習を積みました。その猛練習の成果があつてか、あまり詰まることなく発表を終えることができました。

質問には、どのようなセルローズを使用しているのか、他の機械的特性を検討しているのか、というような質問を受け、すべて回答することができました。とは言うものの、2回同じ内容を聞きかえしたり、”So you mean”と質問内容を確認したりと、一度で理解し、回答することが出来なかったのは悔しかったです。また、セルローズがメインのセッションであったため、CFRP に興味を抱いていただけなかったことも挙げられますが、講演の本来の意味(聴衆に向かって Present する)ということが、私にはあまりできなかったと思い、

悔しい思いをしました。

3.最後に

海外の学会に実際に触れることで、学んだことは数多くあります。その中でも、やはり、英語は**共通語**、世界の人々にとっては話せて当然の言語であると思いました。また、発表者のほとんどの方が、**プレゼンテーション**しているという印象を受けました。自分の研究内容を相手に伝えて、どれだけ難易度の高い研究をしているのか、というアピールをしているように感じました。これらのことに触れる経験ができただけでも、**ECCM**に参加した意義はあったと思います。

謝辞

ECCM という複合材料専門の国際学会で発表する機会を与えてくださった藤井先生、および最後まで私の拙い英語の文章を添削していただいた大窪先生に深く感謝します。DIC株式会社の山崎様、濱田様、原田様、福井県工業技術センターの近藤様、川邊様には、樹脂を提供していただき、またプリプレグを成形して頂きまして、深く感謝いたします。



Fig.1 ECCM の看板



Fig.2 赤ワインとパエリアと



Fig.3 発表中の私



Fig.4 セビリアで食べた生ハム

以上